

出来秋到来、新米出荷

収穫の秋を迎えて9月10日、東川町農協玄米センター(西3号北31番地)で今年の新米出荷初検査が始まりました。



第1号検査は、28区、三田和幸さん(43)と東倉沼、山崎浩敬さん(39)のフレコン米(1ト詰めフレキシブルコンテナ袋)。ともに「ゆめぴりか」1袋(約1ト)ずつを出荷しました。

9月6日の胆振東部地震で全道一斉の停電事故が発生して玄米調整出荷の全自動調整が可能な玄米センターが稼働できず、7日の初出荷予定がずれ込んだので出荷。

三田さんの出荷米は、タンパク含有率7.4%、整粒歩合72%、水分含有率14.5%の1等米出荷となりました。検査に当たった上川農業改良普及センター大雪支所の辻英敏係長は「6月の低温で茎数が不足した。同月29日、幼穂形成期に低温が襲来したため約(やく)数が少なく、花粉の量も少なかった。その後出穂期、開花期に気温

が高く推移した」と今年の天候とイネの生育を振り返りました。当初の同農協契約出荷米数量は、約19万4千500俵(約1万670ト)。

年々取引希望が増えていますが、収量は厳しくなりました。

今年の稲刈りは、昨年より5日程度遅く20日ごろにピークを迎えました。町、東川町農協の新米キャンペーンと前後して新米が販売店に並ぶ見込みです。

稲刈り前に水稲生産者集会



9月11日、東川町農協はJA玄米センター(旧北立支所)で東川米全水稲生産者総決起集会を開き、今年の水稲生産の徹底などを確認しました。胆振東部地震の影響で、3日遅れになった新米検査開始に合わせて玄米センターで開きました。

町内の米生産者約150人が出席しました。樽井功組合長は「台風、水害と厳しい年になった。しっかりと出荷に取り組んでほしい」と気を引き締めました。

9月1日現在の作況は平年より4日遅く、総籾(もみ)数は9割程度。草丈85%、茎数で88%。上川農業改良

普及センター大雪支所は、「各地で遅れている中、東川の出荷は平年並みになった」との評価ながら「6月の低温で茎数が少なく、最後までダメーじが回復しなかった」などと、道内一円に収量は厳しいと生育状況を振り返りました。

ホクレン農業協同組合連合会旭川支所は、主食用米は外国産米と政府備蓄米が出回るため、新米需要が回復しない、との見通しを示し、受給緩和傾向の中、業務用需要の確保と北海道米の啓発強化などを示しました。

玄米センターでは10月24日まで、収米出荷受け入れを予定しています。

創立70周年記念のついでに

8月26日、東川町農協主催のついでに祭りが同農協駐車場特設会場で開かれました。

農協創立70周年記念、旧ホクリツ農協合併50周年記念と銘打って、もれなくカニ汁を無料プレゼント。秋空の下で家族連れが味覚の秋を満喫。



好評だったせり市

東川米と東川産野菜を使用するメニューで人気を競う食グランプリは町内7店が自慢の味を競いました。ステージでは、スクールバンド、吹奏楽、一小太鼓(第一小)、越中踊り(第二小)、一輪車(第三小)など町内小、中、高校の共

東小児童が障がい者スポーツを学んで体験

9月3日、東川小(前田昭彦校長)で障がい者スポーツを学び体験する学習を行いました。

昨年から始まった多様な文化を学ぶ国際教育「Globe」学習の一環として開きました。今回は2年後に東京開催のパラリンピックにちなんで、車椅子に乗って行うで障がい者スポーツ、その中の種目、車椅子ラグビーやアイススレッジを学び体験しました。



障がい者スポーツ「チーム紅蓮」施設長の五十嵐真幸さん、同バリアフリーアドバイザーの松波正晃さん、同カムイ大雪バリアフリーツアーセンターの川村徹さんに加えて、長野冬季パラリンピック・アイススレッジスピードレース金メダリストのマセソン美希さんの障がい者アスリート4人をゲストに迎え、東川養護学校の笹谷吾郎先生(障がい者スポーツ指導員)が授業しました。

「パラリンピックってなんだろう?」

をテーマに11回授業の2回目と3回目の授業。障害車椅子スポーツの種類、競技に使う道具、車椅子の種類を見て、義足や補助具などの道具の形や機能の違いを学びました。

障がい者スポーツの基本を知った後、車椅子ラグビー、車椅子バスケット、アイススケートを楽しくや難しさを体験しました。

神饌田、40年目の刈り入れ

9月3日、東2号北1、三田常男さん(71)の北海道神宮神饌田(しんせん)で恒例の稲刈りが行われました。



春の訪れは早かったものの、6月の低温続きで稲の生長が心配されましたが、7月中下旬からの高温続きで持ち直しました。昨年より3日早い抜穂祭(ぬいぼさい)。昨年はその前年より2日早く、年々時期が早まっています。

吉田源彦宮司の祝詞(はらえことば)に続いて、農協青年部、役場と農協の若手職員、農協女性部フレッシュミズら介助役6人、早乙女12人が本格刈り入れには少し早い田んぼに入りました。

稲刈り唄(うた)のゆっくりとしたリズムに合わせて黄金に実った稲穂を鎌で手刈りし、三田さんと樽井功東川町農協組合長2人が介助役の束ねた稲をはさ掛けしました。

北海道神宮に新米を献納し続けて今年も満40年。抜穂祭を終えた後、関係者は旭川市内で豊かな実りに支えられてきた感謝の記念式典を開きました。

収穫した新米「ゆめぴりか」10俵(1俵は60kg)は、北海道神宮の新嘗祭(にいなめさい)で神前に奉納し、その後1年間毎日神前に供します。

敬老会、ひだまりの里は100歳の小林さんをお祝い

9月16日、老人保健施設・陽だまりの里(本村勝昭施設長)と隣接の特別養護老人ホーム・東川町羽衣園(森田栄園長)で敬老会を開きました。

80人が入園しているひだまりの里では、4人が元気で100歳を迎え、本村施設長が代表して小林キクノさんにお祝いを贈りました。最高齢は、石川



正義さんの103歳。毎年慰問に訪れているピッコロの会(伴美由紀代表、5人)が今年も来園して「見上げてごらん夜の星を」「幸せなら手を叩こう」など懐かしい曲の数々を演奏。民謡の

牧山会(星牧子代表、5人)が北海盆踊りなどを楽しく歌い、演奏しました。本年度、町内では2人が元気に100歳を迎えます。